

口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 6 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

平成 24 年 1 月 20 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 6 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3）

新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 200m 以下の高さで経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

火山性地震の月回数は 67 回（5 月：40 回）と少ない状態で経過しました。火山性地震の震源は、古岳火口付近のごく浅いところでした。

火山性微動の継続時間の月合計は 4 分（5 月：1 分）でした。

・地殻変動の状況（図 3、図 5、図 6）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 7 月分）は平成 24 年 8 月 7 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 1 口永良部島 噴煙の状況（6月29日、本村西遠望カメラによる）

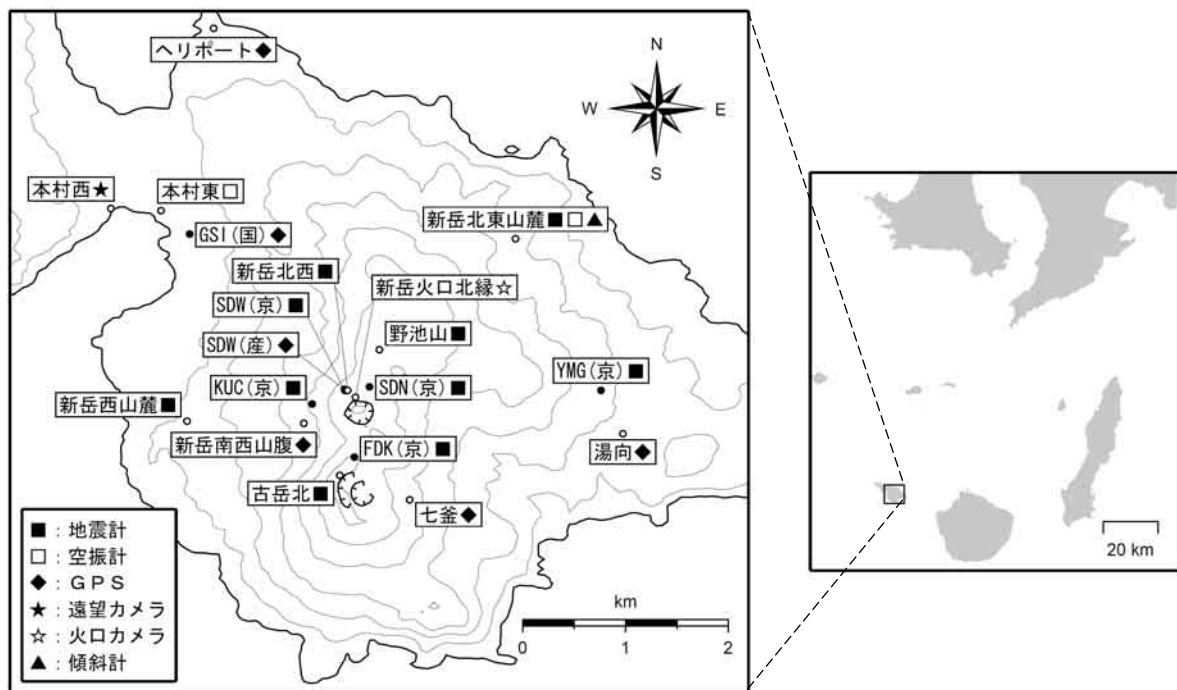


図 2 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所

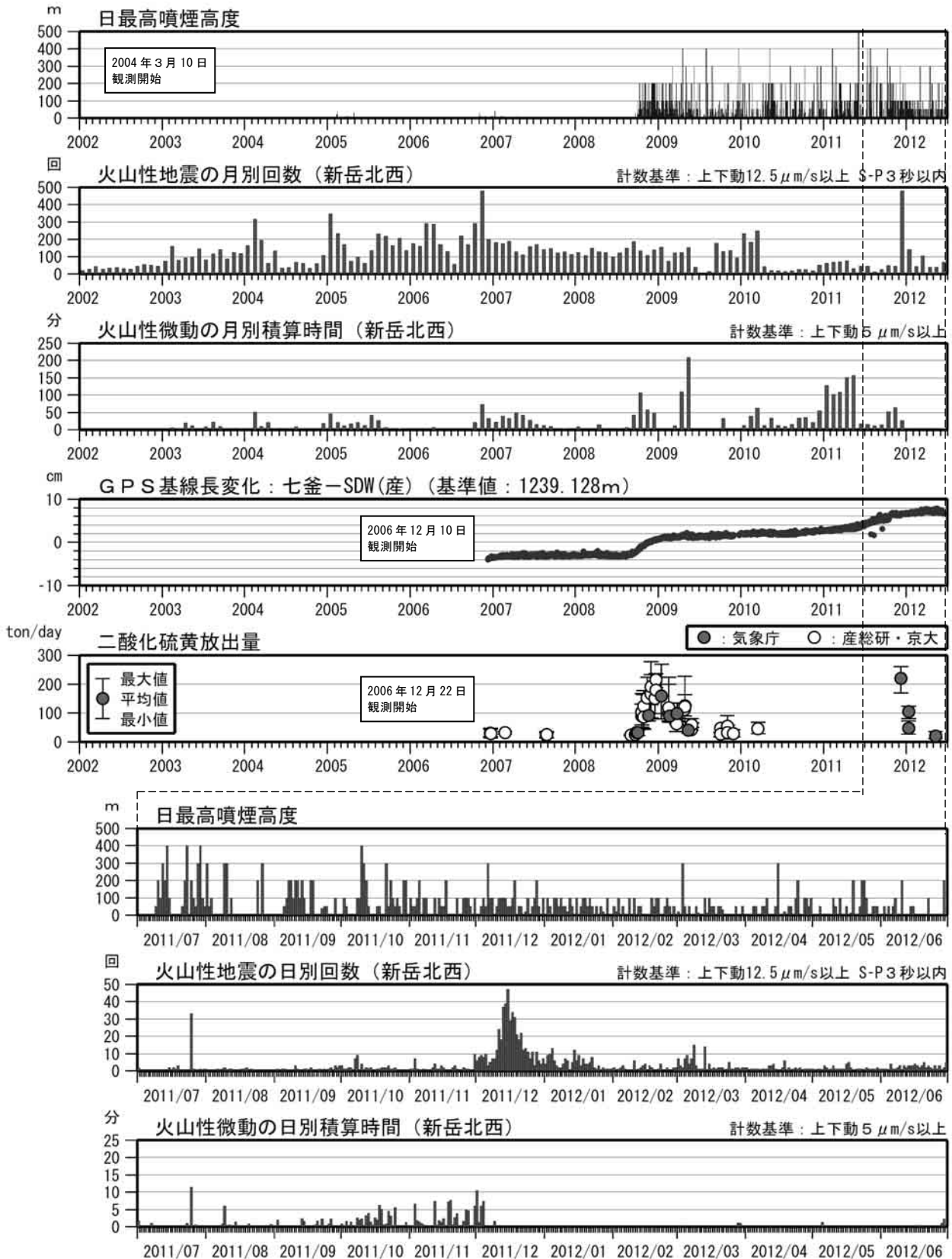


図3 口永良部島 火山活動経過図（2002年1月～2012年6月）

<6月の状況>

- ・白色の噴煙が火口縁上200m以下の高さで経過しました。
- ・火山性地震の月回数は67回（5月：40回）と少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動の継続時間の月合計は4分（5月：1分）でした。

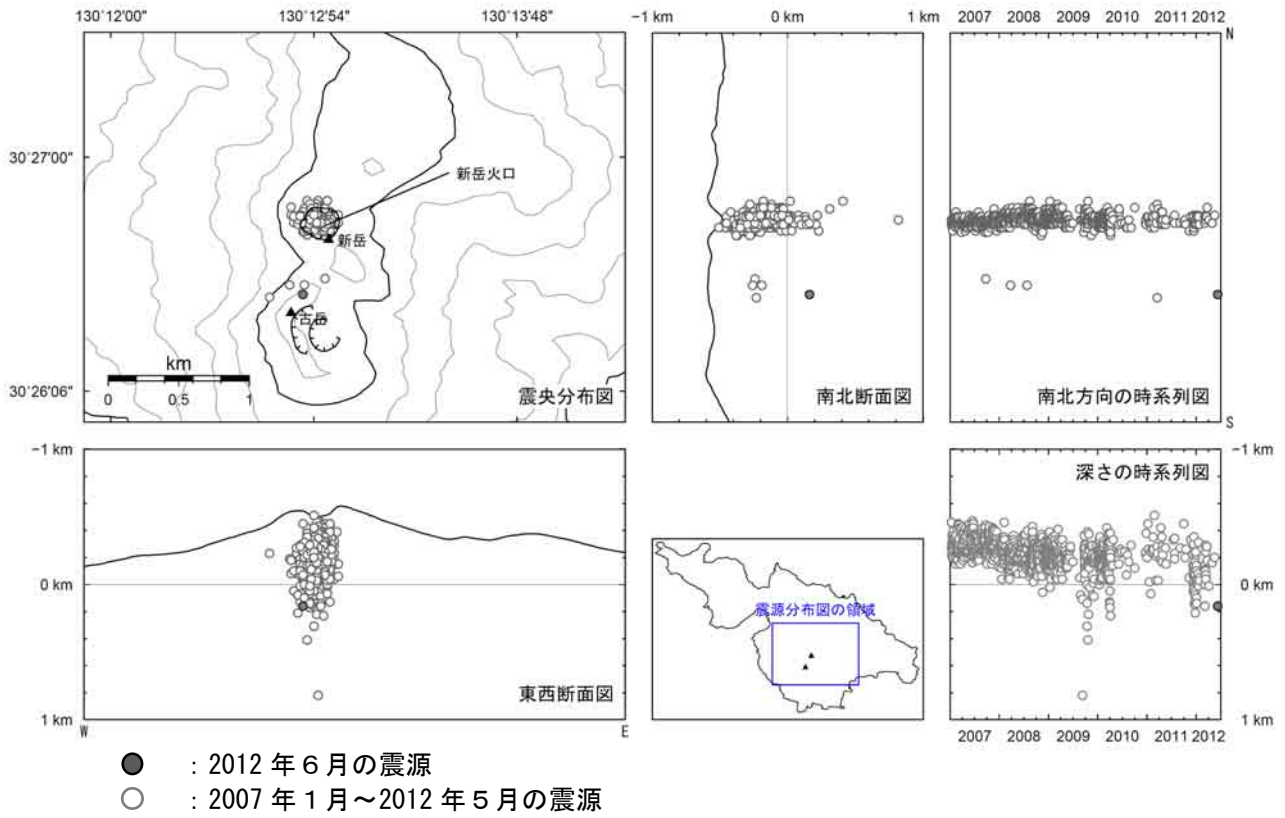


図 4※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2012 年 6 月）
 < 6 月の状況 >
 火山性地震の震源は、古岳火口付近のごく浅いところでした。

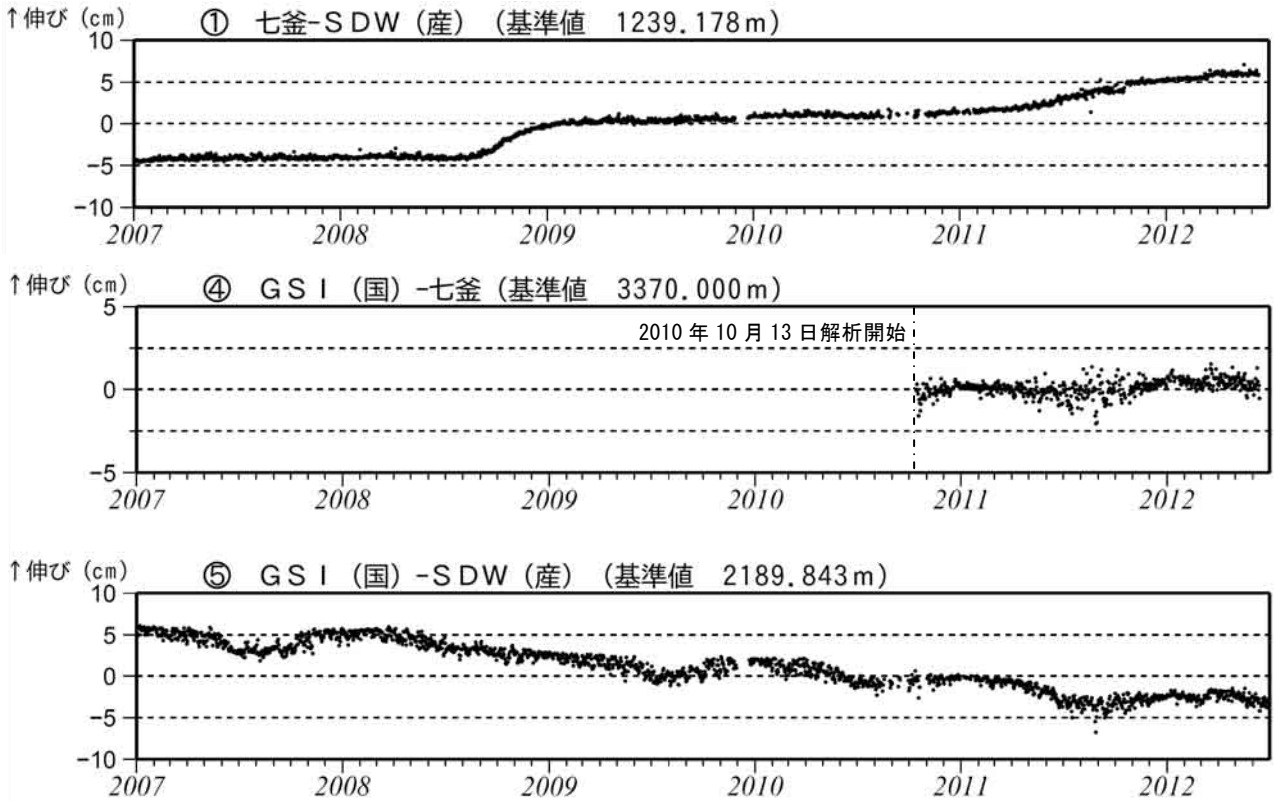


図 5※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2012 年 6 月）
GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線①で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

この基線は図 6 の①、④、⑤に対応しています。
2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
基線②、③、⑥、⑦、⑧、⑨は観測点障害による直近データ欠測のため掲載を省略しました。

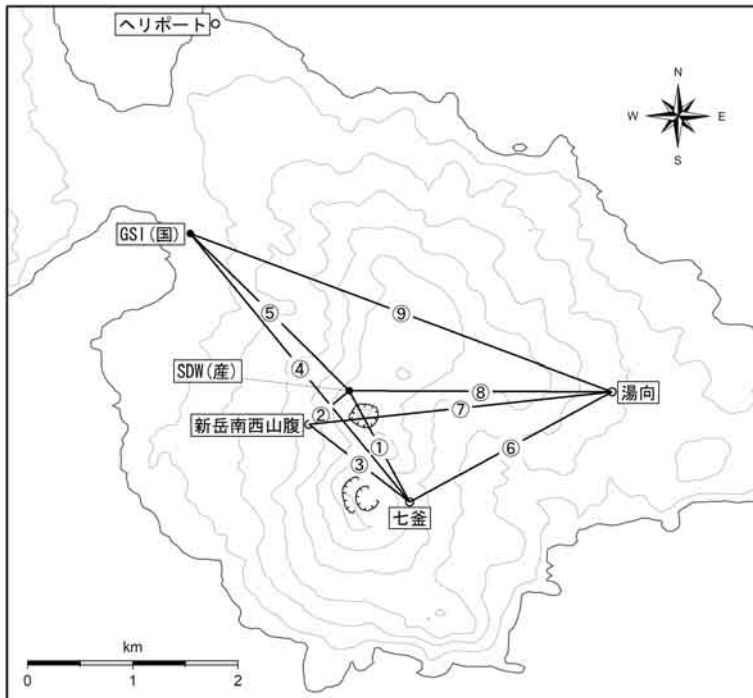


図 6 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は他機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(産)：産業技術総合研究所
ヘリポート観測点は現在調整中です。